

四 半 期 報 告 書

(第91期第3四半期)

株式会社 武蔵野銀行

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
第3 【提出会社の状況】	9
1 【株式等の状況】	9
2 【役員の状況】	10
第4 【経理の状況】	11
1 【四半期連結財務諸表】	12
2 【その他】	24
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	25

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月6日

【四半期会計期間】 第91期第3四半期(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

【会社名】 株式会社武蔵野銀行

【英訳名】 The Musashino Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 加藤喜久雄

【本店の所在の場所】 さいたま市大宮区桜木町一丁目10番地8

【電話番号】 (048)641局6111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員総合企画部長 長堀和正

【最寄りの連絡場所】 さいたま市大宮区桜木町一丁目10番地8

【電話番号】 (048)641局6111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員総合企画部長 長堀和正

【縦覧に供する場所】 株式会社武蔵野銀行東京支店
(東京都千代田区内神田二丁目15番9号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成24年度 第3四半期連結 累計期間	平成25年度 第3四半期連結 累計期間	平成24年度
		(自 平成24年 4月1日 至 平成24年 12月31日)	(自 平成25年 4月1日 至 平成25年 12月31日)	(自 平成24年 4月1日 至 平成25年 3月31日)
経常収益	百万円	59,352	58,544	77,678
経常利益	百万円	15,272	14,472	18,969
四半期純利益	百万円	8,984	8,657	—
当期純利益	百万円	—	—	11,142
四半期包括利益	百万円	11,102	10,409	—
包括利益	百万円	—	—	19,971
純資産額	百万円	185,781	202,556	194,654
総資産額	百万円	3,907,674	4,078,790	3,929,343
1株当たり四半期純利益 金額	円	265.62	258.20	—
1株当たり当期純利益 金額	円	—	—	330.11
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益 金額	円	265.53	258.05	—
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 金額	円	—	—	329.97
自己資本比率	%	4.62	4.82	4.82

		平成24年度 第3四半期連結 会計期間	平成25年度 第3四半期連結 会計期間
		(自 平成24年 10月1日 至 平成24年 12月31日)	(自 平成25年 10月1日 至 平成25年 12月31日)
1株当たり四半期純利益 金額	円	56.65	72.91

- (注) 1 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
 2 第3四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。
 3 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計－(四半期)期末新株予約権－(四半期)期末少数株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

なお、第2四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細については、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「セグメント情報等」に記載しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事業等のリスクについては、前事業年度の有価証券報告書における記載から重要な変更及び新たに生じたリスクはありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

・財政状態

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末比1,494億円増加し4兆787億円、純資産は前連結会計年度末比79億円増加し2,025億円となりました。

主要な勘定残高は、預金が前連結会計年度末比1,178億円増加し3兆7,418億円、貸出金が前連結会計年度末比478億円増加し2兆9,987億円となりました。有価証券は、国債の増加を中心に前連結会計年度末比623億円増加し7,845億円となりました。

・経営成績

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)の経常収益は、投資信託関係手数料を主因に役務取引等収益が増加、また、株式等売却益を主因にその他経常収益が増加したものの、貸出金利息を主因とする資金運用収益が減少したこと等から前年同期比8億7百万円減少し585億44百万円となりました。

一方、経常費用は、店舗関連費用を主因に営業経費が増加する等となったものの、預金利息を主因に資金調達費用が減少、また、貸倒引当金繰入額を主因にその他経常費用が減少したこと等から前年同期比7百万円減少し440億72百万円となりました。

この結果、経常利益は前年同期比7億99百万円減少し144億72百万円、四半期純利益は同3億27百万円減少し86億57百万円となりました。

・セグメントの業績

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)のセグメントの業績は、以下のとおりとなりました。なお、第2四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。

[銀行業]

銀行業セグメントは、経常収益が前年同期比11億2百万円減少し505億16百万円、セグメント利益(経常利益)が前年同期比11億73百万円減少し126億74百万円となりました。

[リース業]

リース業セグメントは、経常収益が前年同期比2億17百万円増加し65億87百万円、セグメント利益(経常利益)が前年同期比57百万円減少し2億83百万円となりました。

[信用保証業]

信用保証業セグメントは、経常収益が前年同期比30百万円増加し13億66百万円、セグメント利益(経常利益)が前年同期比3億79百万円増加し12億57百万円となりました。

[その他]

その他のセグメントは、経常収益が前年同期比51百万円増加し13億89百万円、セグメント利益(経常利益)が前年同期比47百万円増加し2億96百万円となりました。

なお、四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

国内・国際業務部門別収支

当第3四半期連結累計期間の資金運用収支は、国内業務部門が348億24百万円、国際業務部門が7億23百万円、合計で355億45百万円となりました。

役務取引等収支は、国内業務部門が46億51百万円、国際業務部門が21百万円、合計で46億73百万円となりました。

また、その他業務収支は、国内業務部門が12億38百万円、国際業務部門が55百万円、合計で12億94百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	36,478	631	2	37,107
	当第3四半期連結累計期間	34,824	723	2	35,545
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	39,450	724	72	40,062
	当第3四半期連結累計期間	37,390	786	72	38,061
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	2,971	93	69	2,955
	当第3四半期連結累計期間	2,566	62	69	2,516
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	3,967	26	△0	3,994
	当第3四半期連結累計期間	4,651	21	△0	4,673
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	7,833	56	595	7,294
	当第3四半期連結累計期間	8,610	51	633	8,028
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	3,866	30	596	3,300
	当第3四半期連結累計期間	3,958	29	633	3,355
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	2,931	86	—	3,017
	当第3四半期連結累計期間	1,238	55	—	1,294
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	3,677	91	—	3,768
	当第3四半期連結累計期間	2,448	60	—	2,508
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	746	5	—	751
	当第3四半期連結累計期間	1,209	4	—	1,214

(注) 1 国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。

2 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用(前第3四半期連結累計期間1百万円、当第3四半期連結累計期間0百万円)を控除して表示しております。

3 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

4 国内・国際業務部門別収支の相殺消去額は、当行と連結子会社及び連結子会社間の内部取引により相殺消去した金額であります。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

当第3四半期連結累計期間の役務取引等収益は、国内業務部門が預金・貸出業務を中心に86億10百万円、国際業務部門が51百万円となり、内部取引による6億33百万円を相殺消去した結果、合計で80億28百万円となりました。

一方、当第3四半期連結累計期間の役務取引等費用は、国内業務部門が39億58百万円、国際業務部門が29百万円となり、内部取引による6億33百万円を相殺消去した結果、合計で33億55百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	7,833	56	595	7,294
	当第3四半期連結累計期間	8,610	51	633	8,028
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	2,007	—	—	2,007
	当第3四半期連結累計期間	2,043	—	—	2,043
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	1,661	56	—	1,717
	当第3四半期連結累計期間	1,640	50	—	1,690
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	805	—	—	805
	当第3四半期連結累計期間	1,445	—	—	1,445
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	1,762	—	—	1,762
	当第3四半期連結累計期間	1,871	—	—	1,871
うち保護預り・貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	242	—	—	242
	当第3四半期連結累計期間	233	—	—	233
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	1,354	0	595	759
	当第3四半期連結累計期間	1,376	0	633	744
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	3,866	30	596	3,300
	当第3四半期連結累計期間	3,958	29	633	3,355
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	405	30	—	435
	当第3四半期連結累計期間	407	29	—	437

(注) 役務取引等収益・費用における相殺消去額は、当行と連結子会社及び連結子会社間の内部取引により相殺消去した金額であります。

国内・国際業務部門別預金残高の状況

○ 預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	3,598,982	17,217	7,238	3,608,962
	当第3四半期連結会計期間	3,736,724	13,139	8,023	3,741,841
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	1,786,153	—	7,049	1,779,104
	当第3四半期連結会計期間	1,913,105	—	4,834	1,908,271
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	1,797,894	—	189	1,797,705
	当第3四半期連結会計期間	1,809,340	—	3,189	1,806,151
うちその他	前第3四半期連結会計期間	14,934	17,217	—	32,152
	当第3四半期連結会計期間	14,278	13,139	—	27,417
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	30,130	—	3,000	27,130
	当第3四半期連結会計期間	38,530	—	—	38,530
総合計	前第3四半期連結会計期間	3,629,112	17,217	10,238	3,636,092
	当第3四半期連結会計期間	3,775,254	13,139	8,023	3,780,371

(注) 1 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金

2 定期性預金＝定期預金＋定期積金

3 預金及び譲渡性預金の相殺消去額は、当行と連結子会社間の内部取引により相殺消去した金額であります。

国内貸出金残高の状況

○ 業種別貸出状況(未残・構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	2,877,086	100.00	2,998,749	100.00
製造業	288,885	10.04	308,210	10.28
農業, 林業	2,336	0.08	2,493	0.08
漁業	—	—	—	—
鉱業, 採石業, 砂利採取業	4,120	0.14	3,767	0.12
建設業	128,664	4.47	126,144	4.21
電気・ガス・熱供給・水道業	12,484	0.43	13,012	0.43
情報通信業	9,427	0.33	11,854	0.39
運輸業, 郵便業	99,565	3.46	102,149	3.41
卸売業, 小売業	226,588	7.88	242,416	8.08
金融業, 保険業	108,101	3.76	111,487	3.72
不動産業, 物品賃貸業	580,165	20.17	616,507	20.56
各種サービス業	215,599	7.49	224,787	7.50
地方公共団体	188,782	6.56	195,175	6.51
その他	1,012,368	35.19	1,040,747	34.71
特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—
政府等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合計	2,877,086	—	2,998,749	—

(注) 「国内」とは、当行及び連結子会社で、特別国際金融取引勘定分を除くものであります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当行グループの事業上及び財務上の対処すべき課題については、前事業年度の有価証券報告書における記載から重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、建替した主要な設備は次のとおりであります。

会社名	店舗名	所在地	設備の内容	建物延面積(m ²)	完了年月
当行	武蔵浦和支店	さいたま市 南区	店舗(建替)	823.39	平成25年11月
	朝霞支店	埼玉県朝霞市	店舗(建替)	809.09	平成25年12月

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	33,805,456	33,805,456	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当行に おける標準となる株式であり ます。 単元株式数は100株でありま す。
計	33,805,456	33,805,456	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	—	33,805	—	45,743	—	38,351

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 276,300	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 33,355,900	333,559	—
単元未満株式	普通株式 173,256	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	33,805,456	—	—
総株主の議決権	—	333,559	—

(注) 上記の「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1,400株含まれております。

また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権が14個含まれております。

② 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社武蔵野銀行	さいたま市大宮区桜木町 一丁目10番地8	276,300	—	276,300	0.82
計	—	276,300	—	276,300	0.82

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(昭和57年大蔵省令第10号)に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)及び第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
現金預け金	178,775	141,692
コールローン及び買入手形	—	65,000
買入金銭債権	1,545	4,543
商品有価証券	282	310
金銭の信託	1,495	1,510
有価証券	※2 722,195	※2 784,549
貸出金	※1 2,950,897	※1 2,998,749
外国為替	2,545	2,600
リース債権及びリース投資資産	15,231	15,693
その他資産	23,442	31,552
有形固定資産	36,329	36,711
無形固定資産	3,300	2,945
繰延税金資産	3,588	2,340
支払承諾見返	9,294	8,940
貸倒引当金	△19,582	△18,348
資産の部合計	3,929,343	4,078,790
負債の部		
預金	3,624,000	3,741,841
譲渡性預金	25,510	38,530
コールマネー及び売渡手形	940	—
借入金	25,796	25,519
外国為替	114	64
社債	10,000	25,000
その他負債	26,148	24,319
賞与引当金	1,228	304
役員賞与引当金	13	7
退職給付引当金	5,545	5,631
利息返還損失引当金	108	89
睡眠預金払戻損失引当金	278	383
ポイント引当金	60	65
偶発損失引当金	709	599
再評価に係る繰延税金負債	4,937	4,937
支払承諾	9,294	8,940
負債の部合計	3,734,688	3,876,234

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
資本金	45,743	45,743
資本剰余金	38,351	38,351
利益剰余金	81,735	87,875
自己株式	△816	△817
株主資本合計	165,013	171,153
その他有価証券評価差額金	18,202	18,908
繰延ヘッジ損益	△1,423	△800
土地再評価差額金	7,653	7,653
その他の包括利益累計額合計	24,431	25,761
新株予約権	37	50
少数株主持分	5,172	5,590
純資産の部合計	194,654	202,556
負債及び純資産の部合計	3,929,343	4,078,790

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
経常収益	59,352	58,544
資金運用収益	40,062	38,061
(うち貸出金利息)	34,300	31,824
(うち有価証券利息配当金)	5,499	5,957
役務取引等収益	7,294	8,028
その他業務収益	3,768	2,508
その他経常収益	※1 8,225	※1 9,946
経常費用	44,079	44,072
資金調達費用	2,956	2,517
(うち預金利息)	1,756	1,497
役務取引等費用	3,300	3,355
その他業務費用	751	1,214
営業経費	28,670	29,220
その他経常費用	※2 8,400	※2 7,764
経常利益	15,272	14,472
特別利益	1	0
固定資産処分益	1	0
特別損失	250	33
固定資産処分損	21	26
減損損失	229	6
その他の特別損失	—	0
税金等調整前四半期純利益	15,023	14,439
法人税、住民税及び事業税	5,339	4,978
法人税等調整額	477	426
法人税等合計	5,816	5,405
少数株主損益調整前四半期純利益	9,206	9,034
少数株主利益	221	377
四半期純利益	8,984	8,657

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	9,206	9,034
その他の包括利益	1,896	1,374
その他有価証券評価差額金	1,679	751
繰延ヘッジ損益	216	623
四半期包括利益	11,102	10,409
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,860	9,986
少数株主に係る四半期包括利益	241	422

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
破綻先債権額	2,054百万円	2,116百万円
延滞債権額	55,115百万円	54,755百万円
3ヵ月以上延滞債権額	26百万円	一百万円
貸出条件緩和債権額	19,206百万円	16,714百万円
合計額	76,402百万円	73,586百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

※2 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する当行の保証債務の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
	5,704百万円	5,263百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
償却債権取立益	443百万円	284百万円
株式等売却益	155百万円	1,755百万円
リース料収入	4,737百万円	4,720百万円
延払収入	1,089百万円	1,428百万円

※2 その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
貸出金償却	17百万円	9百万円
貸倒引当金繰入額	1,573百万円	1,110百万円
その他の債権売却損等	427百万円	403百万円
株式等売却損	272百万円	29百万円
株式等償却	174百万円	一百万円
リース原価	4,225百万円	4,286百万円
延払原価	1,016百万円	1,343百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	1,849百万円	2,006百万円
のれんの償却額	13百万円	13百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,355	(注) 40	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金
平成24年11月8日 取締役会	普通株式	1,016	30	平成24年9月30日	平成24年12月10日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額40円のうち10円は創業60周年記念配当であります。

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,341	40	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
平成25年11月8日 取締役会	普通株式	1,173	35	平成25年9月30日	平成25年12月10日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	銀行業	リース業	信用保証業	計		
経常収益						
外部顧客に対する経常収益	51,360	6,252	879	58,492	859	59,352
セグメント間の内部経常収益	258	117	455	831	478	1,310
計	51,619	6,370	1,335	59,324	1,337	60,662
セグメント利益	13,847	341	877	15,067	248	15,315

(注) 1 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、以下の業務を含んでおります。

クレジットカード業務、金銭の貸付業務、コンピュータシステムの開発・販売・保守管理業務、県内経済・産業の調査研究、経営・税務等の相談、ベンチャー企業への投資、経営相談

2 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	15,067
「その他」の区分の利益	248
セグメント間取引消去	△30
のれんの償却額	△13
四半期連結損益計算書の経常利益	15,272

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

銀行業セグメントにおいて、営業用店舗の移転計画及び営業キャッシュ・フローの低下に伴い当該営業用店舗の帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

また、リース業セグメントにおいて、本社ビルの建替えの決議を行ったことから帳簿価額の全額を減額しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間において銀行業セグメントで24百万円、リース業セグメントで204百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	銀行業	リース業	信用保証業	計		
経常収益						
外部顧客に対する経常収益	50,390	6,406	861	57,658	927	58,586
セグメント間の内部経常収益	126	181	504	812	461	1,273
計	50,516	6,587	1,366	58,470	1,389	59,860
セグメント利益	12,674	283	1,257	14,215	296	14,512

(注) 1 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2 外部顧客に対する経常収益の合計額と四半期連結損益計算書の経常収益計上額との差額は貸倒引当金戻入益の調整額であります。

3 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、以下の業務を含んでおります。

クレジットカード業務、金銭の貸付業務、コンピュータシステムの開発・販売・保守管理業務、県内経済・産業の調査研究、経営・税務等の相談、ベンチャー企業への投資、経営相談

2 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	14,215
「その他」の区分の利益	296
セグメント間取引消去	△25
のれんの償却額	△13
四半期連結損益計算書の経常利益	14,472

3 報告セグメントの変更等に関する事項

当連結会計年度の第2四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていたぶぎん保証株式会社が行う「信用保証業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報等についても変更後の記載方法により作成したものを記載しております。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

銀行業セグメントにおいて、埼玉県内の営業用店舗について減損損失を計上しております。

この営業用店舗は、営業キャッシュ・フローの低下により、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、6百万円であります。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められないことから記載しておりません。

(有価証券関係)

※ 1. 企業集団の事業の運営において重要なものであることから記載しております。

※ 2. 四半期連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「買入金銭債権」中の信託受益権を含めて記載しております。

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債	6,502	6,556	53
地方債	7,994	8,236	242
社債	6,204	6,192	△12
合計	20,701	20,985	283

当第3四半期連結会計期間(平成25年12月31日)

	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債	8,497	8,530	33
地方債	7,995	8,145	149
社債	5,763	5,738	△24
合計	22,256	22,415	159

2 その他有価証券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
株式	26,919	37,356	10,436
債券	562,694	578,156	15,461
国債	247,850	254,452	6,602
地方債	171,609	177,364	5,754
社債	143,234	146,338	3,104
その他	80,703	82,775	2,071
合計	670,317	698,287	27,969

当第3四半期連結会計期間(平成25年12月31日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	28,310	43,327	15,016
債券	616,728	628,060	11,331
国債	281,504	286,340	4,835
地方債	168,001	172,234	4,232
社債	167,221	169,485	2,263
その他	88,729	91,579	2,850
合計	733,767	762,966	29,199

(注) その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするとともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度における減損処理額は、151百万円(うち、株式151百万円)であります。

当第3四半期連結累計期間における減損処理額はありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、次のとおりであります。

ア 期末時価が帳簿価額の50%以上下落した場合

イ 期末時価が帳簿価額の30%以上50%未満下落し、かつ次のいずれかに該当する場合

- ① 時価が過去1年間にわたり帳簿価額の30%以上下落、又は格付の著しい低下
- ② 発行会社が債務超過
- ③ 発行会社が2期連続の赤字決算

(金銭の信託関係)

金銭の信託の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められないことから記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであることから記載しております。

(1) 金利関連取引

前連結会計年度(平成25年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	金利先物	—	—	—
	金利オプション	—	—	—
店頭	金利先渡契約	—	—	—
	金利スワップ	10,730	△282	△282
	金利オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
合計		—	△282	△282

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)等に基づきヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

当第3四半期連結会計期間(平成25年12月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	金利先物	—	—	—
	金利オプション	—	—	—
店頭	金利先渡契約	—	—	—
	金利スワップ	9,213	△224	△224
	金利オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
合計		—	△224	△224

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)等に基づきヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2) 通貨関連取引

前連結会計年度(平成25年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	通貨先物	—	—	—
	通貨オプション	—	—	—
店頭	通貨スワップ	9,336	△45	△45
	為替予約	2,110	△8	△8
	通貨オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
合計		—	△53	△53

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

当第3四半期連結会計期間(平成25年12月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	通貨先物	—	—	—
	通貨オプション	—	—	—
店頭	通貨スワップ	22,343	△1,152	△1,152
	為替予約	3,238	△3	△3
	通貨オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
合計		—	△1,156	△1,156

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の四半期連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

(3) 株式関連取引、(4) 債券関連取引、(5) 商品関連取引及び(6) クレジット・デリバティブ取引については該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
(1) 1株当たり四半期 純利益金額	円	265.62	258.20
(算定上の基礎)			
四半期純利益	百万円	8,984	8,657
普通株主に帰属 しない金額	百万円	—	—
普通株式に係る 四半期純利益	百万円	8,984	8,657
普通株式の 期中平均株式数	千株	33,826	33,528
(2) 潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益金 額	円	265.53	258.05
(算定上の基礎)			
四半期純利益調整額	百万円	—	—
普通株式増加数	千株	11	19
うち新株予約権	千株	11	19
希薄化効果を有しないた め、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益金額 の算定に含めなかった潜 在株式で、前連結会計年 度末から重要な変動があ ったものの概要		—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

中間配当

平成25年11月8日開催の取締役会において、第91期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当金額 1,173百万円

1株当たりの中間配当金 35円00銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成25年12月10日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月5日

株式会社武蔵野銀行
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	水	守	理	智	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大	村	真	敏	Ⓔ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岩	崎	裕	男	Ⓔ

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社武蔵野銀行の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社武蔵野銀行及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ※ 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月6日

【会社名】 株式会社武蔵野銀行

【英訳名】 The Musashino Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 加藤喜久雄

【最高財務責任者の役職氏名】 ー

【本店の所在の場所】 さいたま市大宮区桜木町一丁目10番地8

【縦覧に供する場所】 株式会社武蔵野銀行東京支店
(東京都千代田区内神田二丁目15番9号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当行取締役頭取加藤喜久雄は、当行の第91期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。